※令和３年度以前入学生用

学校番号	105

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「世界史Ａ」　（東京書籍出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的な基礎知識の充実をはかること。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持ち、背景を理解すること。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情や地理的条件などを関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うこと。

２　学習の到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れをわが国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	・授業への取り組み ・ワークシートの提出	・定期考査 ・グループワークでの発表 ・ワークシートの提出	・定期考査 ・各国歴史年表の作成ならびに読み取り ・各国領域図作成ならびに変化を理解	・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	東アジア世界	東アジアにおける中国の役割と歴史を知ることで、中国に対する理解や知識を身につける。ニュースなどの報道を鵜呑みにするのではなく、自らの力で考え、情報の取捨選択する力を身につける。	○	○	○	○	a:提出物の提出 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
	南アジア世界とイスラーム世界	南アジアの様々な宗教観に触れることで、様々な文化や思想の違いに触れる。また、色々な考え方に触れて考える力を身につける。 イスラーム世界（西アジア）における宗教観・民族観に触れることで、現在ある民族紛争や内戦について考える力を身につける。	○	○	○	○	a:提出物の提出 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
2学期	ヨーロッパ世界とユーラシアの交流圏	海と陸を結ぶ多様なネットワークが発達、内陸アジアや沿岸部に大交流圏が成立したことを扱う。 流通ネットワークを扱い、今日の流通と比較することで、新たな文化・風習の形成を理解させる。	○	○	○	○	a:提出物の提出 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
	一体化する世界	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立、大西洋貿易を扱う。16 世紀から 18 世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。	○	○	○	○	a:提出物の提出 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
3学期	現代の世界と日本	産業革命以降の世界の変革を取り扱い、現代世界の基盤となる体制について理解させる。２つの大戦、東西冷戦等の国際情勢を踏まえ、今後の世界のあり方について考える力を身につける。	○	○	○	○	a:提出物の提出 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。